

研究成果報告書

救急科・集中治療部 山本晃之

「医療コンテナの効果的かつサステナブルな活用に関する検討」について災害治療学研究所研究費助成として研究費の支援を受け、その用途と研究の進捗を報告する。

本研究は災害時において有用と考えられる医療コンテナについて特定の災害状況下でのシミュレーションを行うことで、その災害の特性に応じた効果的な活用方法や、その他災害状況での汎用性を検討するものである。

検討を行う災害状況としては、まず自然災害として大規模地震下でのシミュレーションを想定している。大規模地震が頻発する日本ではこのような災害に備えることは必須課題であり、2024年1月に発生した能登半島地震による大規模地震災害において、医療支援として自衛隊ヘリの発着場所や避難所、医療機関に医療コンテナが設置された。被災地の地域特性や地震特性、被災状況、医療コンテナの利用状況などの情報収集を行いつつ有効性や問題点の検討を行い、効果的な活用方法を見出すためのシミュレーション方法を検討している。当初の検討事項としていた都市部の大規模地震災害に限らず、能登半島地震のように医療過疎地域で発生した地震災害においても医療コンテナは有効と考えられ、その活用方法についても合わせて検討を進めていくこととしている。

その他の災害状況としては、放射線災害下での医療コンテナの活用方法の検討として、放射線医学研究所の緊急被ばく医療支援チーム（REMAT）や当院の災害医療派遣チーム（DMAT）と協同のうえ、放射線災害特有である除染エリアの設定や医療コンテナの搬入・設置、患者の除染を含めた診療などの一連のシミュレーションを行うことを検討している。さらには当院の周辺地域でも頻繁に開催されているようなマスギャザリングイベント（大規模スポーツイベントや音楽イベントなど）下における医療コンテナの活用方法についても検討を行う予定であり、シミュレーション方法について検討を進めている。

研究費助成を受け、本研究でのために占有することができるパソコンや周辺機器がなかったことから、こうした機器の購入費に当てることで、研究活動における効率性の向上を目指している。